来館者の鑑賞体験を活用した文化財情報の発信

研究代表者	稲　庭　彩和子	神奈川県立近代美術館	学芸員
共同研究者	高　野　明　彦	国立情報学研究所	教授
	丸　川　雄　三	国立情報学研究所	特任准教授
	中　村　佳　史	国立情報学研究所	研究員
	剣　持　勝　美	神奈川県立大清水高校	教諭
	高　松　智　行	横浜国立大学付属鎌倉小学校	教諭

Abstract

本研究は、鑑賞者と作品とのコミュニケーションを重要なコンセプトとして構成し、美術館における「人とモノ（作品）」「人と人」「人と情報」の間に起こるコミュニケーションの可能性を広げることを目標としている。その具体的な取り組みとして作品鑑賞体験を美術館の作品展示に活かす発信展示手法の研究開発を行い、神奈川県立近代美術館の展覧会「珠玉のコレクション 美術館はぼくらの宝箱」（会期2009年6月6日－9月6日）にて公開した。本研究の成果は、財団法人日本産業デザイン振興会の評価を得て、2009年度グッドデザイン賞の一次審査を通過した。また、2010年2月に開催されるシンポジウム「第4回　21世紀ミュージアム・サミット 100人で語る美術館の未来」において、日本の美術館における先進的な取り組みとして報告した。

研究成果概要

多くの鑑賞者は美術館での内面的な体験をその場で表現することなく各自が持ち帰る。そのため来館者の鑑賞体験はあまり美術館には蓄積されてこなかった。そこで神奈川県立近代美術館は、小、中、高等学校と協力して、2007年から美術教育の一環として実施されている鑑賞授業を記録する取り組みを続けている。記録の内容は、子どもたちの感想、作品からインスピレーションを得て作った物語や詩、美術館で子どもたち自身が撮影した写真などである。これらの記録はブログ「蓮池通信」にてその一部が公開されている。

このような鑑賞体験および鑑賞から生まれた言葉や映像などの表現には、展示作品と人とを結びつける力があると思われる。本研究では、神奈川県立近代美術館の展覧会「珠玉のコレクション 美術館はぼくらの宝箱」（鎌倉別館、会期2009年6月6日－9月6日）において、鑑賞授業の記録や子どもたちの表現を作品展示に活用する新たな試みを行った。

企画展は「作品・表現・知識」の3つの展示空間で構成されている。「作品空間」は、神奈川近代美術館の所蔵品を代表する27点の作品を展示するコーナーであり、子どもたちの言葉の一部を、展示室に作品の周囲にささやきのようにちりばめ、鑑賞の邪魔にならない程度に違う視点を提供した。「表現空間」は、子どもたちの表現にあふれた鑑賞授業の記録や、本研究の一環として作成した短編ドキュメンタリー映像と共に展示するコーナーであり、映像展示のためのディスプレイ等を配置した。「知識空間」は、展示されている作品の

絵入りカードを木の机にかざすだけで、その作品の詳しい情報や関連書籍に出会うことができるコーナーである。神奈川県立近代美術館が開発した「Museum Box宝箱」カードと、国立情報学研究所の無線ICタグ技術および「想－IMAGINE」連想検索システムとを組み合わせることによって、鑑賞体験と知識空間が連続的につながる環境を実現した。

これら3つの空間を連携させることにより、作品を見て考え、他者の意見を聞き、考えたことを言葉にするという鑑賞者の自然な思考の経路に寄り添った展示を実現し、来館者に作品とのコミュニケーションを促す鑑賞空間を提供した。「作品空間」は、作品の世界を自分に引きつける素直な子どもの言葉によって、来館者にこれまでとは違う視点で作品に向き合う機会を広げる。「表現空間」は、子どもたちの素直な表現に触れることにより、新たな表現の可能性を自分の中に見つけるきっかけを与える。「知識空間」は、作品カードと情報空間とのインタラクションによって、作品につながる本や文化財などの知の世界に触れる機会を広げることを意図している。

本研究の成果は、「ミュージアムにおける新しい展示様式の提案」として日本産業デザイン振興会2009年度グッドデザイン賞パブリックコミュニケーション部門の一次審査を通過し、東京ビッグサイトで開催されたグッドデザインエキスポ2009（会期2009年8月28日－30日）で一般公開展示された。残念ながら最終審査は通過しえなかったが、エキスポ会場には4万人の来客があり、神奈川県立近代美術館と国立情報学研究所のコラボレーションによる美術館の新しい取り組みを多くの方に紹介する機会を得た。

また本研究の成果を、これからの美術館の在り方を探る国際的なシンポジウム「第4回　21世紀ミュージアム・サミット 100人で語る美術館の未来」（会期2010年2月27日－28日）において、日本の先進的な取り組みとして報告、アメリカのイザベラ・スチュワート・ガードナー美術館およびフランスのルーヴル美術館の事例と並び、本研究の一環として制作した映像作品「鎌倉の立てる像たち」および「拝啓鬼様」（森内康博監督、2009年、日本）の2作品を上映した。

平成21年度は、鑑賞体験を美術館という実際の展示場面で活用する環境の実現を果たし一定の評

図1「作品空間」には作品と子どもたちの言葉を展示した（「美術館はぼくらの宝箱」から）

図2「表現空間」には作品に触発された子どもたちの詩や写真や映像を展示した（「美術館はぼくらの宝箱」から）

図3「知識空間」には作品カードから関連情報を調べることができる「想RFID」システムを設けた（「美術館はぼくらの宝箱」から）

価を得た。今後は本手法の適用範囲を広げ、教育現場や一般家庭などのより多様な環境においても利用可能なインターネット上のサービスの研究開発に取り組む必要があると思われる。

論文発表等

稲庭彩和子「子どもと楽しむためのガイドブック 美術館はぼくらの宝箱」神奈川県立近代美術館，2009年6月

稲庭彩和子「神奈川県立近代美術館の事例」第4回21世紀ミュージアム・サミット「100人で語る美術館の未来」，湘南国際村学術研究センター，2010年2月27－28日

開催した会議、イベント、メディア発表、特許等

●展示（共同研究発表展示）

「珠玉のコレクション 美術館はぼくらの宝箱」展　2009年6月6日－9月6日，神奈川県立近代美術館，鎌倉別館

「ミュージアムにおける新しい展示様式の提案」2009年8月28日－30日，グッドデザインエキスポ2009，東京ビッグサイト

●展覧会を活用した研究会の開催

高松智行，稲庭彩和子「教育UPセミナー」6月27日，横浜国立大学附属鎌倉小学校＋神奈川県立近代美術館，参加者　25名

稲庭彩和子「「みる」から「みえる」へ－参加する・関わる・創造する作品鑑賞－」2009年8月5日，小田原市，足柄下郡合同研究会，対象　14名

稲庭彩和子「「みる」から「みえる」へ－参加する・関わる・創造する作品鑑賞－」2009年8月6日，逗子市・葉山町教員向け研究会，参加者18名

稲庭彩和子「美術館との連携による教育活動研修講座」2009年8月26日　県立総合教育センター，参加者20名

●展覧会を活用したワークショップの開催

稲庭彩和子，中村佳史「「Museum Box 宝箱」体験＆ギャラリートーク「宝箱で遊ぼう」」2009年7月25日，参加者15名

稲庭彩和子「「Museum Box 宝箱」体験＆ギャラリートーク「宝箱で遊ぼう」」2009年8月22日，参加者15名

氏川こずえ（NPO法人はじめまして、美術館。代表），稲庭彩和子「「はじめまして、美術館。」親子鑑賞ワークショップ」2009年8月4日，参加者20名

稲庭彩和子，松尾子水樹（NPO法人STスポット理事）「宝箱であそぼう」2009年7月15－22日，片瀬小学校，6年生160名対象

●新聞

東京新聞 2009年6月26日夕刊「美術館はぼくらの宝箱展から　子どもの視点にハッとする　結城昌子」

読売新聞　2009年8月13日夕刊「あなたも「感動」案内人　菅谷千絵」

神奈川新聞　2009年8月26日「子どもが見たアート　県立近代美術館　感想を添え展示　西郷公子」

神奈川新聞　2009年9月5日「社説　美術館と教育「自分」発見する楽しみ」

●ラジオ

湘南ビーチFM　稲庭彩和子「森川いつみのDaily Zushi-Hayama」2009年8月4日10時30分-11時出演